

あばさいロード

地域医療連携に向けて

社会医療法人社団 順心会 順心神戸病院

社会医療法人認可

このたび医療法人社団 順心会は令和2年4月1日に順心病院が、令和6年4月1日に順心神戸病院が社会医療法人の認可を受け、社会医療法人社団 順心会として新たに歩みをすすめております。

これもひとえに皆様の日頃のご厚情、ご支援の賜物と深く感謝申し上げます。

今後は地域の皆様のお役に立てますよう、最善の努力を尽くしてまいりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

社会医療法人社団 順心会

理事長 栗原英治

社会医療法人認可記念 感謝の会

理事長ご挨拶

本日は大変お忙しい中、社会医療法人認可記念 感謝の会にお越しいただきありがとうございます。

当法人は、令和2年、まさに新型コロナウィルス感染症が猛威を振るい、各地に広がりつつある中、順心病院が救急医療の分野で社会医療法人の認可をいただきました。

そして、ちょうどその年に開設しました順心神戸病院も、令和6年の今年、同じく社会医療法人の認可をいただくことができました。

これもひとえに、皆様のご支援、ご協力があったからこそと、心より感謝いたしております。

本日は、その皆様への感謝の気持ちとご報告を兼ね、この会を開催させていただきます。

私どもは、これを機会に、社会医療法人としての役割をより一層果たすため、新たな自覚と決意をもって、地域の医療と福祉に取り組んでまいりたいと考えております。

そして、皆様の期待にすこしでも答えることができるように、より信頼される施設、法人を目指して、職員一同、力を合わせて頑張りたいと思います。

また、平素お世話になっております皆様には、格別のご高配を賜り、いつも温かく見守っていただいておりますが、時には厳しい目で見えていただき、今後ともこれまでと変わらぬご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

最後に、ご臨席を賜りました、ご来賓の皆様のご健勝とご多幸を心から申し上げ、誠に簡単ですが、開催の挨拶とさせていただきます。

本日はありがとうございました。



特別講演

演題「地域で創る安心・安全な社会—救急・災害医療の視点から」

中山 伸一

順心神戸病院院長補佐・救急部長
兵庫県災害医療センター 名誉院長・顧問



21世紀も四半世紀が経過しようとしている今、私たちは眼を背けてはいけぬ現実や今にも迫りくる危機とどう向き合うべきなのか？戦争、核、地球温暖化、気候変動、国内では経済低迷、円安、高齢化社会、少子化、労働者不足…。医療、保健、介護、福祉分野に絞ったとしても課題は山積している。その上、私たちは地球上でも災害が多発する日本列島に暮らすことを宿命づけられている。

とすれば、災害に対する2つのP（PreventionとPreparedness）が不可欠。阪神・淡路大震災では、命を守るべき医療分野におけるPreparedness（対応準備）の欠如からPreventable Death（避け得る死）の発生を招いた。その教訓と反省から、災害救急医療情報システム（EMIS）、災害拠点病院、DMATなどの災害医療体制づくりが兵庫県から全国に広がった。しかしながら、「平和で安心・安全な国を創る」ことを目標として国は「国土強靱化計画」を掲げてきたが、命を守る私たち医療の脆弱性は、今年の能登半島地震でわかるようにハードウェア・ソフトウェアとも放置されたままと言っても過言ではない。

救急医療分野においては、重症に対応する救命救急センターの整備と初期、二次、三次救急医療機関の役割分担や救急救命士によるプレホスピタル体制が充実したが、高齢化社会や新型コロナ感染により救急車搬送数も年々うなぎ上りで、医療や福祉施設の病床や職員不足などの脆弱性を浮き彫りにした。

正常性バイアスに陥らずに、この暗い現実の中に光を灯すヒントはないのか？

例えば、「社会医療法人」は救急・災害医療分野での地域社会貢献を行う義務があり、順心病院・順心神

戸病院を含め、県下12法人15医療機関はその責任を重々自覚して取り組んで欲しい。その際、独り相撲をとるのではなく、地域の福祉、住民の方々と力を合わせ、地域包括ケアの推進や社会福祉協議会などと連携することが重要だ。市民のAdvanced Care Planning（人生会議）の推進も欠かせない。また、兵庫県の災害拠点病院は現在19施設、そのほとんどは救命救急センターだ。そして、それらと県下の全ての病院、消防機関、そして保健所などは、EMISにより災害時の被災状況を互いに共有でき、かつ災害時に備えたBCP（事業継続計画）作りに役立つ。また、JR福知山線列車脱線事故のような事故による多数傷病者発生時には、消防機関から医療機関に情報が発信されて、多くの患者受入れや現場への医療チーム派遣がスムーズに行われる「エリア災害用モード」、そして救急車搬送が30分以上決まらない状況下で消防が発信する「個別搬送モード」など全国に先駆けての機能が兵庫県EMISには搭載されている。このような兵庫県独自の情報ネットワーク作りの推進がヒントになるような気がする。

要は、暗い現実を前に活路を開くには、安心・安全な、成長より成熟を目指したこの独自のモデルケースを、この地域から創って行くしか道は開けない。そして、それには私たち地域の医療、介護・福祉、保健を担う組織それぞれがプレイヤーとなり、かつ連携・連帯・協力のチームワーク力を醸成することが不可欠だと考えている。この地域の皆様に幸あれ！



院長ご挨拶



原田 俊彦

皆様のおかげをもちまして、順心神戸病院も社会医療法人の認定に至りました。これからも病院理念である救急医療と急性期回復期の2本柱で、この地域の医療に貢献できるよう医療活動を行ってまいります。

さて、今後の展望としましては、急性期医療では、救急科に新任の医師を迎えます。また、整形外科としても体制を整え、手術日も増やすことが出来ました。

次に回復期医療ですが、需要が高く満床状態が続いておりましたので、病床数を8床増やしました。

それに伴い、リハビリの機器 人員とも充実を図っております。

また、引き続き神戸大学の関係各科及び順心病院とともに診療体制を強化してまいります。

24時間365日断らない方針のもと、地域医療に貢献できるよう活動してまいりますので、引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

副院長ご挨拶(脳外科チーム)



林 成人



宮本 宏人

令和6年4月1日当院は社会医療法人の認可を受け、7月1日には開院から5年目を迎えることができました。今日までつつがなく歩んで来られたのも皆様から多大なご支援を賜ったお陰であると、心より感謝致しております。と同時に、地域医療を担う一員として、その重みを日々実感しています。世の動きを見ていましても、この先ますます地域医療の重要性が増すものと思われま。情勢の流れに対応すべく、順心病院脳神経外科医師とのシームレスな連携を維持しつつ、整形外科手術枠の拡充や回復期病棟の増床を行いました。8月からは救急医療の第一線で活躍されてきた専門医がチームに加わり、これまで以

上に幅広い対応が可能となります。さらにパワーアップし地域との連携をより強固にしていく所存ですので、今後とも何卒よろしくお願いいたします。

新任医師紹介

救急、外傷急性期外科、集中治療、麻酔



ICU部長
なかやま はるき
中山 晴輝

地域の皆様

はじめまして。兵庫県災害医療センター(HEMC)から参りました中山晴輝(なかやま はるき)と申します。

前任地では約14年間、兵庫県の高度救命救急センターの救急外科医として重症外傷や重症疾患の救命に尽力しておりました。

生存が絶望的な患者様を、ドラマさながらのチームワークで救命できた喜びは数知れず。この熱い炎は後輩たちが無事引き継いでくれました。

医師人生20年目となり、これからの20年は別視点から神戸市の医療を支えたい、という想いから異動を決意致しました。

救命センターでの経験を基に、地域の2次医療と3次医療機関との強い連携を構築し、垂水区のみでなく神戸市全域の救急医療の発展に貢献したいと考えております。

地域の皆様に頼られる病院となれるよう、順心神戸病院の一員として日々精進して参ります。皆様、どうぞ宜しくお願い致します。

整形外科・スポーツ外来のご案内

スポーツ外来はサッカーにおけるスポーツ外傷、障害や少年野球における肘・肩関節の障害が専門ですが、年齢、種目を問わず、診察を行っております。早期に、そして安心してスポーツへの復帰ができるよう、医師とセラピストがタッグを組み、強力なバックアップ体制を整えております。

肩、肘、手の痛み、脊椎疾患等でお悩みの方は、お気軽に当院の整形外科を受診、ご相談下さい。



院長
整形外科専門医
ヴィッセル神戸チームドクター

原田 俊彦

第1・2・4・5金曜日 午前診

「日本整形外科学会功労賞」を受賞

* 整形外科学分野の医師のうち、整形外科学及び医療の進歩普及に顕著な功績があった医師に授与されます。



やまもと ゆうや
山本 裕也

月・土曜日 午前診

整形外科の山本と申します。本年4月より月曜、土曜の整形外科外来を担当させていただいております。大学では外傷グループに所属しております。お困りの症例があればいつでもご紹介いただけますと幸いです。微力ではありますが、皆様のお役に立てるよう精進してまいりますので、どうぞ宜しくお願い致します。



整形外科専門医
側弯症治療の第一人者

宇野 耕吉

火・木曜日 午前診

2024年ベストドクターに選出されました。



整形外科専門医
ヴィッセル神戸
チームドクター

戸祭 正喜

第1・3・5土曜日 午前診



整形外科専門医
ヴィッセル神戸
チームドクター

国分 毅

木曜日 夜間診

開院5周年にあたり

看護部

外来

当院は、地域密着型病院としての一般診療及び2次救急医療の役割を担い、脳血管・整形外科疾患をはじめとし様々な疾患の患者様が来院します。救急外来、一般診療で受診された患者様が安心して診療を受けることができるよう、目配り、気配り、こころ配りのある、看護を提供しております。今後も病院と地域をつなぐ窓口として、院内での多職種連携と患者様、地域の人々とのつながりを大切にしていきたいと考えています。



手術室

手術室では、「24時間365日断らない救急医療で地域に貢献する」という病院の方針に基づき、2023年度では脳神経外科・整形外科・肛門外科等、年間約460件の手術に対応しています。手術看護では入院中の患者様と接する時間は限られていますが、患者様やご家族の不安の軽減に努め、安全な手術で早期に健康回復していただけるよう、チーム医療による院内・院外との連携を大切にして、スタッフ一同、取り組んでまいります。

3階病棟

当院は、急性期と回復期の2本柱で地域包括ケアシステムを支えるという理念のもと、多職種で患者中心のチーム医療を提供しています。回復期リハビリテーション病棟において私たちは、患者様を生活者として捉え、患者様やご家族に安心して望まれる療養先へ戻っていただけるよう、地域連携室を中心に院内や地域との連携を図っています。患者様やご家族に安心して切れ目なく、治療・ケアを受けていただくために、今後もより一層、連携強化に努めていきたいと考えております。

4階病棟

地域密着型病院として地域包括ケアシステムを支える当院の理念から、4階病棟では、急性期における患者様の治療・看護に対応しています。入院直後から多職種や地域と連携を図り、患者様を中心としたチーム医療を行い、地域で安心して生活が送れるよう医療・介護・福祉の複合ニーズにも対応した円滑な退院支援を目指し、日々取り組んでいます。今後も、より一層、患者様やそのご家族様の生活ニーズを尊重した看護を提供するため、地域との連携強化を図りたいと考えています。

診療支援部

薬剤課

薬剤課では、入院時に患者様が持参した「お薬手帳」等から処方歴・薬歴を把握し、その内容が不十分な場合には、確認のためにかかりつけ医や保険薬局に問い合わせ、得られた情報をその後の処方提案や服薬指導に活用しています。また、退院時には、退院後も服用する薬の情報について「お薬手帳」等を利用して、次に患者様を受け持つ医療・介護スタッフに発信しています。今後は、退院の際の情報伝達手段として「施設間情報連絡書（薬剤管理サマリー）」等を作成し、よりよい情報を他の医療機関等に提供できるような体制を構築したいと考えています。



放射線課

放射線課は、24時間体制で画像検査に対応し、夜間は当直体制によってスピーディに救急対応出来るよう心がけています。CTやMRIの紹介検査も行っており、地域のクリニックからは、「順心神戸病院の画像は綺麗だ」との声を頂いています。

また、放射線量最適化支援システムが導入され、患者様の医療被曝を低減する事にも注力出来るようになりました。これらの環境を活かして、これからも地域社会に貢献し、患者様の健康を支える一員として取り組みたいと考えています。



栄養課

栄養課では、アレルギーの有無、食事形態、食嗜好などを考慮して安全で患者様に喜んで頂ける食事の提供をしております。また、入院患者様の症状や栄養状態に合わせた食事を提供することで、疾病の早期回復、合併症の予防を図り、栄養面からサポートしています。

退院後の食事環境を把握し、栄養管理情報を提供出来るよう取り組んでいきたいと思っております。



検査課

検査課では当院の理念の一つでもある救急医療と急性期において、24時間365日検査可能な体制を整えており、迅速な検査結果を提供できるよう心がけております。また、感染制御チームの一員として近隣の施設様と連携し、合同カンファレンス等を行い、患者様が安心してご入院できる環境を整備しております。今後は、新型検査機器の導入の検討しており、更にスピーディーで質の高い検査を提供できればと考えております。



リハビリ課

退院後の方や生活の中で身体機能に不安を抱える方、もっとこんなことが出来るようになりたいと思う方にリハビリを通じて自信を持って「いきいきとした生活」を送っていただくことを目指してサービスを提供しています。生活の質の低下を招く転倒の予防には特に力を入れて取り組んでいます。

短時間、運動メインのサービスですが、ご利用者やご家族をはじめ、地域で活躍されるケアマネージャーの皆様から信頼を得られるように頑張ります。



通所リハ

リハビリ室で出来るようになった動作を病棟の生活場面で出来るように、さらには自宅で実践出来るようにしていくことが最終的な目標です。そのため、退院後の生活を支えるケアマネージャーや介護保険サービス事業所のスタッフなど地域の方との連携も積極的に行っています。

2020年7月のコロナ禍に開院し、これまで感染対策で様々な地域と連携が不自由となっていました。しかし、制限も解除され、従来退院までに行われてきた退院前訪問や自宅での動作確認ならびにご家族への介助指導なども行う機会が持てるようになってきました。退院後の生活の不安が少しでも解消できるよう、ますますの連携を図りたいと思っています。



居宅介護支援センター学園都市

退院後も住み慣れた地域で安心して生活が出来るように、介護保険サービス等をご利用できるようお手伝いします。地域連携室・訪問看護ステーションと連携し退院前からサポートいたします。



訪問看護ステーション学園都市

訪問看護では、ご利用者様一人一人に寄り添い、安全で望まれる生活支援と一緒に考えてサポートができればよいと考えています。病院、ケアマネジャー、地域との連携を行い、希望される看護、リハビリを行っていきます。



事務部

開院より5年間で、たくさんの患者様・医療機関様と出会い、関わらせていただきました。「接遇の神戸」を掲げ、笑顔とおもてなしの心で、すべての患者様・ご家族様に安心してご来院頂けるよう努めてまいります。

昨年度より新卒の職員を迎え、また、7月よりユニフォームも一新し、気持ち新たに、病院の顔として相応しい接遇でご来院者様をお迎えできるよう取り組んでいきたいと思っております。



地域医療検討会

垂水消防署との症例研修と意見交換

この度、救急医療機関の体制を理解するとともに、医療従事者同士の顔の見える関係を構築し、さらなる救急医療の充実を目的として、症例研修と意見交換を実施いたしました。



1. 日時 令和6年7月12日(金) 13時30分から16時30分
2. 実施場所 順心神戸病院 2階 大会議室
3. 内容 (1) 症例研修「頸髄損傷を疑い搬送した症例」(仮題)
(2) 教育講演「救急隊向け脳卒中講演」(仮題)
(3) 統計から見る救急隊と垂水区内の病院事情
(4) 意見交換

病床機能変更

2024年4月1日に病床機能を行い、回復期50床から58床へ増床を行いました。

また急性期は、2床部屋を2室オープンいたしました。

病床機能変更により、今まで以上に地域の救急対応、スムーズな在宅復帰へのサポートを職員一同、取り組んで参ります。



脳ドックのご案内

脳ドック実施日

検査日 火曜日 15:00~
結果説明日 土曜日 9:00~
※日帰りドックになります。

検査内容

- ①問診
- ②身体測定
- ③循環器系検査
- ④MRI、MRA
- ⑤頸部血管超音波
- ⑥血液検査・尿検査
- ⑦脳波検査 (オプション)

CT/MRIのオーダーのご案内 (受付窓口：地域医療連携室が対応します)

CT/MRIの予約・検査・結果が当日可能

当日の予約・検査・結果が可能です。日時の予約をしていただきます。当院ホームページのオーダーフォームをご利用ください。

CT・MRI 検査依頼申込書 (診療情報提供書)

令和 年 月 日

順心神戸病院
地域医療連携室 (検査受付担当) 行

紹介元医療機関名
住 所
医師氏名
T E L
F A X

専用FAX
078-754-8582

| | | |
|---------------|-------------------|--------------------------------------|
| フリガナ | 性別 | 検査希望日 |
| 患者氏名 | 男 女 | ① 月 日 () 曜・四・いずれでも可 |
| 生年月日 | M/T/S/R 年 月 日 (歳) | ② 月 日 () 曜・四・いずれでも可 |
| 受診科 | | ③ 月 日 () 曜・四・いずれでも可 |
| 順心神戸病院ID | | 放射診断を <input type="checkbox"/> 希望しない |
| 患者住所 | | <input type="checkbox"/> 希望しない |
| *検査結果は後日郵送します | | |

病名・主訴、検査依頼目的等

MRI検査の場合、次の項目を患者様にご確認ください (確認 済 未)

心ペースメーカー 人工弁置換 脳動脈タック 妊娠 喘息
 ヘモトモトシス 入れ歯 その他の体内金属
手術歴 有・無

放射線検査

■ CT 頭部 胸部 腹部 四肢 (R L) その他
 単純 造影 単純+造影

■ MR 頭部 頸椎 胸椎 MRCP (胆 膵) 肝臓 腎臓・泌尿
 子宮・卵巣 前立腺 腎 (R L) 膝 (R L) その他
 単純 造影 単純+造影
 MRA

下記ご記入ください(保険証コピー時)

| | | | |
|-------|------|-------|--------|
| 保険者番号 | 診療科目 | 検査依頼者 | 検査依頼日 |
| 記号 | 番号 | 氏名 | 年 月 日 |
| 資格取得 | 資格取得 | 有効期限 | 年 月 日 |
| 有効期限 | 有効期限 | 備考 | 老人負担割合 |
| 事業所名称 | 所在地 | | |

検査機器の紹介



脳血管撮影装置
GEヘルスケア・ジャパン INNOVA IGS6 630



1.5T MRI (磁気共鳴断層撮影) 装置
GEヘルスケア・ジャパン Signa explorer 1.5T

←この用紙で申し込み

ホームページよりダウンロードしてください。



64列マルチスライスCT装置
GEヘルスケア・ジャパン Revolution EVO EX

オーダー受付窓口 TEL：078-754-8581

地域医療連携室

地域連携室は患者様や地域にお住まいの皆様、関連する医療機関の皆様から相談しやすく、わかりやすい説明ができるように努力しています。医療・介護・社会福祉の知識を持った職員が対応させていただきます。「接遇の神戸」を志に持ち、丁寧な対応をしていきますので今後もよろしくお願い致します。(猪澤)



(左から、中林、猪澤、安部、久保、松本、奥田)

日々、多様な背景を持った患者様の対応に関わっております。社会背景も反映してか、独居の高齢の方が多く、退院後の生活が安全に不安無く過ごせるよう考慮しながらの調整を心がけています。(久保)

後方支援業務を主に携わっております。急性期病棟での治療後に、患者様が不安のない療養生活を送れるように、分かりやすい説明を心がけていきたいと思っております。(中林)

看護職として介護など高齢者に関する総合相談窓口の相談員として地域の関係機関と連携をした経験があります。患者様の取り巻く実情をふまえて相談し、親身になって支援させていただきたいと思っております。お気軽に声をかけて下さい。よろしくお祈りいたします。(松本)

回復期リハビリテーション病棟を担当させて頂いております。入職したばかりで不慣れなことも多く、日々学ぶことばかりではありますが、経験を重ねてこれから成長していきたいと思っております。患者様やご家族様の気持ちに寄り添いながら、少しでもお力になれるように精一杯頑張りますのでよろしくお願いいたします。(奥田)

入職したばかりで覚えることが多く苦労する場面もありますが、先輩方の手厚いサポートのおかげもあり、少しずつではあるものの出来るが増えてきたように思います。患者様や家族様に安心して相談して頂ける相談員になれるよう日々業務に取り組んでいきたいと思っております。(安部)

地域医療連携室 TEL：078-754-8581